

かわら版

NO.8

第3回ワークショップを開催しました

□日時・参加人数・対象

令和元年10月17日（木） 19:00～21:00 ・ 34名 ・ 公募による多度地区の方

□テーマ

「事業候補地について」

「小中一貫教育からみた学校について」

□場所

多度まちづくり拠点施設

1 経過説明



現在の事業の進捗状況とその経緯について説明しました。事業の背景として、少子化が進む中で子どものより良い教育環境を整備し、子育て世代が多度に住み続けることで活力を維持していきたい。また、建設場所は多度中小とその周辺で子どもたちがのびのびと過ごせる広さを確保していくこと。機能としては、学童や給食調理室は必要と考えており、行政機能の複合化は考えていないことを説明しました。

事業候補地「多度中小とその周辺」における課題や心配事とその対応策等をテーマに5グループに分かれて対話を行い、最後に全体共有を行いました。

※テーブルトークの概要は右面に掲載してあります。



2 テーブルトーク 全体共有

会の最後には、多度地区の小中学校で現在取り組んでいる小中一貫教育の内容について説明しました。また、小中一貫校となったときに、子どもの9年間の「縦のつながり」と地域・保護者との「横のつながり」を大切にしたい教育が実現できるよう、現時点で考えている一貫校の諸施設について説明しました。

3 小中一貫教育から みた学校について

4 ふりかえり シートより (一部抜粋)

- ・多度の小中一貫校の敷地や安全面を具体的に考えることができよかった。いろいろな地域の人や中小周辺の事（交通事情）が聞けてよかった。みんなゆりの敷地で安全を第一に考えていたので共有できてよかった。
- ・まちづくり（多度町の活性化）をふまえての一貫校設立であるという挨拶の言葉通り、建物だけでなく多度町、桑名市の将来をもう少しきちんと説明していただけるとよいと思いました。
- ・皆、多度のまちづくりについて真剣に話げできた。ただし、感情論に流れるところもあったので、建設的ではない場面もあり残念でした。
- ・まだ納得されてない意見もあったし、広さが確保されないと進まない話だと感じます。グループの話にもあったが、小学校だけの統合も視野に入れていくべきだと感じます。
- ・市教育委員会の話を聞いて、こんな学校に通わせたいと思いました。まだまだこれからだと思いますが、耳を傾け考えていきたい。

5 テーブルトーク交流

Aグループ



一貫校の開校にはまだまだ時間がかかる。小規模の小学校が課題なら、まずは小学校を統合すべき。中小とその周辺用地は立地としては中心部だが、空き家も増え高齢化も進んでおり地域の見守りができるのかは心配。用地取得に関して、地権者の合意が得られるのか。高低差が大きく、バリアフリーに対応した施設となるのか。周辺道路の現状から通学路の安全確保も課題である。複合施設は、新たな図書館という意見もあったし、市の提案程度で良いという意見もあった。地域と共に自然体験学習ができる施設等もあると良い。働く家庭へのサポートとして、6時以降にも子どもをあずかれる施設があると良い。

学校生活を安全に過ごすには広い用地（40,000㎡程度）を確保し、学校、駐車場、車路等には余裕が必要である。小学1年生から中学3年生まで通うため、校舎内での子どもの動線は重要であり、敷地の段差利用や校門の場所も工夫しなければならない。多度地区全体のまちづくりの視点を持ち、学校を拠点として町全体が盛り上がることも重要である。その他、しっかりとした学校を造る予算はあるのか、スクールサポーター増等で、今の課題を含め対応すべきとの意見があった。複合施設は、学童保育所だけで良い、まずは良い学校を造ることを考えるべきとの意見が出された。

Bグループ



Cグループ



敷地は、拡張側で小中別で活動ができる広さ（4万㎡）が必要だが、移動時間の配慮や断層への専門的意見が必要で、遺跡調査も心配。通学は、徒歩、自転車、バスの安全確保が必要で、県道に歩道橋が必要では。駅周辺に賑わいを作り人の目を増やしたい。スクールバスは、バス停の場所や数、安全の確保が必要で巡回バスと兼ねられないか。敷地出入りは、各手段の動線を検証し、ロータリーやバス専用発着場の検討も。進入路は複数いらぬか。駐車場は周辺確保も検討しては。複合化は学童のみか、高齢者と触れ合う場があってもいいのでは。施設と通学路等の費用をしっかりと確保を。

なぜ小学校の統合ではいけないのか。小中一貫校建設にしても、施設一体型・施設分離型のメリット、デメリットの整理が必要。建設候補地を多度中小とその周辺にすると決定した経緯の説明がなく、理由がわからない。多度の住民の声をもっと聞いて進めるべき。中小周辺には新しい住宅も多くあり、埋蔵文化財も多くある。小中一貫校に必要な面積を確保できる見通しがあるのか不安。過去のワークショップで出された意見が反映されていない。意見に対する回答があれば、それを検討して次に進むことができるのではないかな。

Dグループ



Eグループ



基本的に学校は子ども達が学習する場であり複合施設はいらぬが、子どもの教育を第一に考えたもの、具体的には多度の文化の継承を目的とした施設等があり、そのような場で多世代交流ができることは良い。また、そのような施設は学校だけでなく、各地域にもあると良い。加えてスクールバス通学の子ども達が待ち時間に自習できる教室の設置やグラウンドの一般開放、学生のみが利用できる図書室の整備等も検討してはどうか。課題として、災害時の避難経路を踏まえた校舎設計、通学路の整備、閉校した学校の跡地利用、学童の規模や指導員の確保等が挙げられた。